

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査／ 在宅介護実態調査の結果について (平成 29 年 6 月 匝瑳市)

【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】

あなたのご家族や生活状況について

■ 家族構成(報告書 3 ページ)

「夫婦二人暮らし」の割合が最も高く、「一人暮らし」の割合は 2 割弱程度である、という傾向がみられた。

■ 主観的な介護の必要度(報告書 3 ページ)

「介護・介助は必要ない」人の割合が 8 割以上になる、という傾向がみられた。

■ 主観的な経済状態(報告書 5 ページ)

「ふつう」の割合が最も高く、「大変苦しい」「やや苦しい」と感じる人が 3 割程度である、という傾向がみられた。

■ 居住形態(報告書 6 ページ)

「持家」の割合が 9 割以上になる、という傾向がみられた。

【まとめ】

家族構成や居住形態を考慮した上で、介護・介助が必要となっても住み慣れた場所での生活を続けられるような取組が必要と考えられます。

からだを動かすことについて

■ 運動機能の低下や転倒リスク(報告書 7~9 ページ)

「過去 1 年に転んだ経験がある」人の割合が 3 割程度であり、「転倒に対する不安」については「とても不安である」「やや不安である」人の割合が 5 割程度である、という傾向がみられた。

■ 閉じこもり傾向(報告書 9~10 ページ)

「週 1 回以上外出する」人の割合が 9 割以上になり、「外出の回数が昨年と比べて減っている」人の割合は 2 割程度である、という傾向がみられた。

【まとめ】

外出回数の減少はそれ程みられないものの、運動機能の低下や転倒リスクにつながらないよう、閉じこもり傾向にならないための取組が必要と考えられます。

食べることについて

■低栄養の傾向(報告書 12・14 ページ)

「6 か月間で 2~3kg 以上の体重減少はない」人の割合が高い、という傾向がみられた。

■口腔機能の低下(報告書 12~13 ページ)

該当する人の割合が 3 割程度である、という傾向がみられた。

■義歯の有無と歯数(報告書 14 ページ)

「自分の歯が 19 本以下、かつ入れ歯を利用」している人の割合が 5 割近くになる、という傾向がみられた。

■孤食の状況(報告書 15 ページ)

「毎日誰かと食事をともにすることはない」人の割合が 5 割程度である、という傾向がみられた。

【まとめ】

食事や歯の状況等が、低栄養や口腔機能の低下とも関連していると考えられるため、歯の健康を保つことや、孤食にならないための取組が必要と考えられます。

毎日の生活について

■認知機能の低下(報告書 16 ページ)

該当する人の割合が 4 割以上になる、という傾向がみられた。

■IADL の低下(報告書 17~19 ページ)

「バスや電車を使って一人で外出していますか」において、「できない」と回答する人の割合が他の設問よりもやや高い、という傾向がみられた。

【まとめ】

認知機能や IADL を低下させないための取組が必要と考えられます。

地域での活動について

■社会参加の状況(報告書 22~25 ページ)

全体的に「参加していない」人の割合が最も高い、という傾向がみられた。

■地域づくりへの参加意向(報告書 25~26 ページ)

「参加者として参加したい(してもよい)」人の割合が 5 割以上になる、という傾向がみられた。

【まとめ】

地域づくりに参加してもよいと考えている人が一定数いることから、場の設定の仕方を工夫することで、社会参加を促すことができる可能性があります。

たすけあいについて

■たすけあいの状況(報告書 27~28 ページ)

「心配事や愚痴を聞いてくれる(あげる)人」としては「配偶者」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「友人」を回答する人の割合が高く、「看病や世話をしてくれる(あげる)人」としては「配偶者」「子ども」を回答する人の割合が高い、という傾向がみられた。

【まとめ】

家族での助け合いを中心としつつも、独居の高齢者の方等を対象に、地域でも助け合えるような取組が必要と考えられます。

健康について

■主観的健康感(報告書 30 ページ)

「あまりよくない」「よくない」人の割合が2割程度である、という傾向がみられた。

■うつ傾向(報告書 31 ページ)

該当する人の割合が3割程度である、という傾向がみられた。

■現在治療中の病気等(報告書 33 ページ)

「高血圧」と回答する人の割合が最も高く、次いで「目の病気」や「筋骨格の病気」の割合が高い、という傾向がみられた。

【まとめ】

主観的健康感やうつは、要介護状態を予測する主要な因子であることから、個人や地域単位でのモニタリングが、ひきつづき重要と考えられます。

その他

■健康を維持する方法(報告書 35 ページ)

「腰痛・腰痛予防」や「栄養バランス」と回答する人の割合が高い、という傾向がみられた。

■利用したいサービス(報告書 36 ページ)

「移送・送迎サービス」や「買い物支援」と回答する人の割合が高い、という傾向がみられた。

【まとめ】

住み慣れた場所での生活を続けられるよう、ニーズの高い移送・送迎や買い物支援等のサービスを整備していくことが必要と考えられます。

【在宅介護実態調査】

A票（認定調査員が記載）について

■世帯類型（報告書 37 ページ）

「その他」の割合が最も高く、「単身世帯」の割合は2割弱程度になる、という傾向がみられた。

■家族・親族による介護の頻度（報告書 38 ページ）

「ほぼ毎日ある」と回答する人の割合が7割以上になる、という傾向がみられた。

■主な介護者（報告書 38 ページ）

続柄については「子」の割合が高く、性別については「女性」の割合が高く、年齢については「60代」の割合が高い、という傾向がみられた。

■主な介護者が行っている介護（報告書 39 ページ）

「家事（掃除、洗濯、買い物、食事の準備等）」や「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「外出の付き添い、送迎等」と回答する人の割合が高い、という傾向がみられた。

■家族・親族の就業状況（報告書 40 ページ）

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答する人の割合が9割以上になる、という傾向がみられた。

■今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（報告書 40 ページ）

「見守り、声かけ」や「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「外出同行（通院、買い物など）」と回答する人の割合が高い、という傾向がみられた。

■施設等への入所・入居の検討状況（報告書 41 ページ）

「入所・入居は検討していない」と回答する人の割合が8割以上になる、という傾向がみられた。

■介護保険サービスの利用状況（報告書 41～42 ページ）

「利用している」と回答する人の割合が7割以上になる、という傾向がみられた。また、利用していない場合の理由では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」という理由が多くみられた。

【まとめ】

在宅での生活を続けるために、ニーズの高い移送や外出同行等のサービスを整備していくことが必要と考えられます。

B票（主な介護者もしくは対象者が回答）について

■主な介護者の勤務形態（報告書 43～44 ページ）

「働いていない」と回答する人の割合が 5 割近くになる、という傾向がみられた。また、働いている場合、働き方の調整については「介護のために労働時間を調整しながら働いている」人の割合が高く、必要な支援については「介護休業・介護休暇等の制度の充実」と回答する人の割合が高く、今後の勤務継続については「問題はあるが、何とか続けていける」人の割合が高い、という傾向がみられた。

■主な介護者が不安に感じる介護（報告書 45 ページ）

「外出の付き添い、送迎」と回答する人の割合が高い、という傾向がみられた。

【まとめ】

主介護者が在宅介護を続けていくために、介護の負担を軽減させるための支援や、介護と仕事を両立させていくための支援制度の充実を図る必要があると考えられます。